

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
〈専〉京都建築大学校	平成2年10月22日	小田 晃	〒622-0041 京都府南丹市園部町小山東町二本松1-17 (電話)0771-63-1010			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人二本松学院	平成2年10月22日	理事長 新谷秀一	〒622-0041 京都府南丹市園部町小山東町二本松1-17 (電話)0771-63-1010			
目 的	<p>「本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、建設技術に関する専門的知識および技術を修得させて、社会に有用な人物の育成を図ることを目的とする。(学則第1条)」</p> <p>本校は「社会から求められる即戦力となる人材の育成」を理念に掲げ、開校当初から建築業界で必要とされる実務力および実務に必要とされる資格を在学中に取得させることを教育の基本に据え、加えて実社会で求められる倫理観や人間力を身につけた専門的職業人の育成を図っている。実習系の授業には、建築・インテリアの業界から経験豊富な指導者を確保するとともに、卒業生の受け入れなど、関係団体等と連携しながら運営に努めている。</p>					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業	工業専門課程	建築科	2年(昼)	1,710単位時間 (又は単位)	平成6年文部大臣告示84号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	1,980単位時間 (又は単位)	210単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	1,320単位時間 (又は単位)	60単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
720人	864人	24人	44人	68人		
学期制度	■「前期：4月1日～9月30日」 ■「後期：10月1日～3月31日」		成績評価	■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について 授業科目の成績評価は、学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。		
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：8月8日～9月16日 ■冬 季：12月26日～1月6日 ■学 年 末：3月21日～3月31日		卒業・進級条件	学則に定めた授業科目の履修をもって卒業及び進級条件とする		
生徒指導	■クラス担任制(有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 クラス担任が、個人指導、保護者との連携指導に努めている。		課外活動	■課外活動の種類 地元南丹市園部町内の清掃活動 祇園祭山鉦巡行への参加 ■サークル活動(有・無)		

就職等の状況	<p>■主な就職先、業界 (地方自治体、総合建設、工務店、ハウスメーカー、建築・インテリア設計事務所等)</p> <p>■就職率 100.0%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合 7.1%</p> <p>■卒業者に占める進学者の割合 88.2%</p> <p>(平成28年度卒業者に関する平成29年3月時点の情報)</p>	主な資格・検定	<p>二級建築士、木造建築士インテリアプランナー、インテリア設計士、インテリアコーディネーター、測量士補、2級建築施工管理技術検定、カラーコーディネーター、福祉住環境コーディネーター、CAD 利用技術者試験、宅地建物取引主任者等</p>
中途退学の現状	<p>■中途退学者 建築科51名 ■中退率 6.7% (平成28年度) 平成28年4月1日在学者 建築科763名 (平成28年4月入学者を含む) 平成29年3月31日在学者 建築科712名 (平成29年3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 疾病・経済的な理由が大半を占めている。</p> <p>■中退防止のための取組 クラス担任教員が欠席や怠学傾向にある生徒への個別指導に務めている。出席率が基準を下回ると文書で保証人にも通知し、教員と連動して出席を促している。状況によって担任以外の教員及び校長との面談を実施し指導している。怠学・欠席等による学業不振者については定期的に補講を実施し、休退学にならないように努めている。</p>		
ホームページ	URL: http://www.kasd.ac.jp/		

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本校は平成3年の開校以来、建築・インテリア業界における「即戦力として社会に通用する人材の育成」を理念に建築・インテリアの専門教育を実施し、本年度で26年目を迎えた。その間、当初他校に類を見ない専科在学中の二級建築士等資格取得システムや放送大学との連携による学士号取得システム、一級建築士受験や大学院進学が大学建築学科と同等に扱われる高度専門課程の設置など常に社会と業界の動向を把握し、学生にとってより良い「新しい教育のカタチ」を模索・実践してきた。

これまで二級・木造建築士やインテリアプランナー等の資格検定試験では10年以上に渡って合格者数日本一を維持し、それら以外の建築関連資格においても多数合格者を輩出することで社会・企業から高い評価を受けている。

しかし、我が国における建築・インテリア業界を取り巻く社会状況は更に厳しさを増している。環境に対する意識が高まり、新技術や設備等が開発され、それらの新しい知識・技術の習得は必須であり、加えて建築士の社会に対する影響力の高さを考えるとき、その職責に対して、より一層の高い意識が求められている。また、環境・エネルギー問題、景観・コミュニティへの配慮、社会的弱者や防災等への対応などデザインや知識・技術だけではなく多くの新しい課題が提示されており、特に、阪神・淡路大震災や東日本大震災などの多くの自然災害は業界のみならず社会全体に大きな教訓を与えることとなった。このような状況の中で本校では、これからの時代を切り開いていく「真に社会に必要とされる人材の育成を目指したより実践的な」新しい教育プログラムが必要であると考えている。

本校は「職業若しくは實際生活に必要な能力を育成」(学校教育法第124条【専修学校】)を目的に、建築・インテリアの知識・技能修得を主とした専門学校教育を行ってきた。教育課程の特徴として専門実習演習時間は全体の約50%以上を確保し、教員には一級建築士やインテリアプランナー・インテリア設計士等の現役技術者を当て、専門技術の修得に当たっては基礎・基本を重視し、より実践的な教育を行っている。開校以来四半世紀を経過し、10,000人を超える卒業生の中から、京都府を始め、全国に建築・インテリアの技術者を数多く送り出している。

以上の経過から、一般社団法人京都府建築士会南丹支部、一般社団法人関西インテリアプランナー協会、一般社団法人日本インテリア設計士協会京都支部、一般社団法人京都府専修学校各種学校協会等との産官学連携のもとで、教育課程の編成、授業科目の開設、授業改善等を行ってきた。また、建築・インテリアの実務に係る実習系科目の教員は各業界からの推薦及び派遣を得て確保している。さらに卒業生の受け入れについてもこれら産業界が積極的にかかわっている。

教育課程の編成にあたっては、建築教育に知見のある、建築業界の代表、学術機関の有識者で構成する「教育課程編成委員会」を設置し、当該専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目の見直し、授業内容・方法の改善等を行い、斯界の要望にこたえる人材育成を目指した教育課程の再編成を適宜行っている。

平成26年9月1日に施行された「大学設置基準第二十九条第一項の規定により、大学が単位を与えることのできる学修を定める件の一部を改正する告示」及び「短期大学設置基準第十五条第一項の規定により、短期大学が単位を与えることのできる学修を定める件の一部を改正する告示」の施行は、様々な教育機関に編入学等多様な履修機会を確保するよう求めるものであった。本校においてもこれに対応すべく平成27年2月17日付で学則変更届を提出し、受理された(学則変更日 平成27年4月1日)。さらには、インテリア業界からの要請とインテリア業界への就職希望者が増加していることを踏まえ、平成27年度より「インテリアデザインコース」を開講することとなった。これにより、建築科は1年次後期より「建築コース」と、新設する「インテリアデザインコース」に分かれて授業を実施することとなり、より実践的で専門性の高い教育を提供することが可能となった。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年 3月 15日現在

名 前	所 属
中西 健志	一般社団法人 京都府建築士会 南丹支部長
八木 光也	京都府インテリア設計士協会 副会長
小梶 吉隆	一般社団法人 関西インテリアプランナー協会 会長
安藤 眞吾	京都美術工芸大学教授・公益社団法人 日本インテリアデザイナー協会理事
北村 雅昭	学校法人二本松学院 企画推進室長
小田 晃	京都建築大学校 校長
広辻 雅之	京都建築大学校 教務部長

(開催日時)

平成29年3月15日 11:00~12:30

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

本校は「即戦力として社会に通用する人材の育成」を理念に建築・インテリアの知識・技能修得を主とした専門学校教育を行ってきた。教育課程の特徴として専門実習演習時間は全体の約50%以上を確保し、建築・インテリアに関連する職業に必要な実践的かつ専門的な能力・資格を育成・取得するため、建築設計製図実習、CAD実習などの実習系授業科目の教員は、それぞれ各業界組合からの派遣を受け、各団体と組織的な連携のもとで専門的な職業実践教育を行っている。

科目名	科目概要	連携企業等
建築設計製図実習Ⅰ～Ⅳ	建築設計製図実習Ⅰ～Ⅳでは、実務に即した建築設計製図の知識と技術を基礎から課題制作の中で修得し、模写から自由制作、卒業制作まで発展的に学習する。	京都府建築士会南丹支部、京都府インテリア設計士協会、一級建築士事務所小笠原・林建築設計研究所等
CAD実習Ⅰ～Ⅳ	パソコン実務に即するCADの機能を習得する。基礎から課題制作の中でより高度で実践的な建築図面をCADで設計する。	関西インテリアプランナー協会、地域にねざすTAPROOT、iエンジニアリング等

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

これまで、年度当初に全教員会議を実施し、年間授業計画、授業方法等に関し意見交換を中心に研修を行い、また、卒業研究講習審査会等において授業評価研修を行ってきた。

今後は、更なる授業改善のための学生アンケートやヒアリングの実施や、外部有識者を招いての講習を実施したい。また教員を連携関連団体や企業に研修派遣し指導力向上を図る。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成29年 3月 15日現在

名前	所属
相川 三郎	一般社団法人 京都府専修学校各種学校協会 副会長
江崎 信芳	放送大学 京都学習センター 所長
熊谷 勝	株式会社 くまのすみか 取締役会長
疋田 友一	一般社団法人 日本インテリア設計士協会 会長
畠山 千代	京都建築大学校卒業生 畠山 悟さんの保護者
樋口 浩之	京都建築大学校卒業生・ヒグチヒロユキ一級建築士事務所 所長
松尾 もえ人	京都建築大学校卒業生
小田 晃	京都建築大学校 校長
広辻 雅之	京都建築大学校 教務部長

(学校関係者評価結果の公表方法)

学校法人二本松学院のホームページで公表する。

URL: <http://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

京都建築大学校のホームページで情報提供する。

URL: <http://www.kasd.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程建築科) 平成29年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			コミュニケーション	将来の建築技術者として、学校でいかに学ぶか、将来の展望をいかに持つべきかを学ぶ。建築関連の資格を紹介するにとどまらず、取得の方法まで指導する。進路指導室と連携して、社会人としての一般常識、礼儀等を指導する。	1通	30	2	○		
	○		特別活動	校内の学習では得られない人間形成等を学ぶ。社会で活躍している人の講演を聴講し、社会の実情や規範を学ぶ。また社会人としての基礎能力の為に考えて準備しておくべきことや、専門知識を修得する重要性を学ぶ。	1前	30	2	○		
		○	英語Ⅰ	基礎学力を得ることに重点をおき、一般教養教育の出発点とする。英語の読解を通して、言語能力を養い、あわせて広い視野を持つことの重要さも学ぶ。また問題の解答により、基礎学力の増加をはかり、英語科目だけでなく、日常の英語に役立つようにする。	1前	30	2	○		
		○	英語Ⅱ	英語Ⅱでは、基礎文法能力だけでなく、英語自体の特徴に慣れ、より具体的に英語の読解が出来るようになることを目標とする。また、世界の情勢などを英語で学ぶことで、グローバルな視野をもつ学生の育成を目指す。	1後	30	2	○		
○			建築構造概論Ⅰ	初学者が基本的な建築のしくみについて学ぶ。建築物の構成や基礎、構造方式や主体・仕上げの各工法などについて、イラストや写真を使用して学ぶ。建築構造概論Ⅰは、軸組と基礎、小屋組、部材の接合法、耐力壁・筋かいの配置、ツーバイフォー構法等を取り扱う。	1前	30	2	○		
○			建築構造概論Ⅱ	建築物の主体である鋼構造(接合法、軸組構法、トラス構法、軽量形鋼構法等)・鉄筋コンクリート構造(材料と構造、ラーメン構法、壁式構法等)等の基礎的知識を理解させる。	1後	30	2	○		
○			構造力学Ⅰ	各種構造物の力学に関する基礎知識を学ぶ。特に、構造物やその構造に発生する荷重や応力などを理解することに重点を置き、力のつり合いの概念を理解させる。静定梁、静定ラーメンに生じる力の算出方法、応力度の算定方法を身につけ、許容応力度設計法の基礎を確実にする。	1前	30	2	○		

○			構造力学Ⅱ	静定トラスに生じる力の算出方法、応力度の算定方法を身につけ、許容応力度設計法と不静定構造に生じる力の算定方法を身につける。構造力学Ⅱでは、静定トラスの解法、断面の性質（断面一次モーメント、断面二次モーメント、断面係数）、部材に生じる応力度、はりの変形（たわみとたわみ角、モールの定理）、不静定構造物の解法を取り扱う。	1 後	30	2	○		
○			建築計画Ⅰ	建築物の種類やはたらきは多種多様であるが、それぞれに便利で快適で安全な場を提供する必要がある。これらの要求を総合的に計画する方法を学ぶ。建築計画Ⅰでは、建築計画の概念、建築の計画のプロセス、人間の行動・行為と建築の内部及び外部空間との関係、地域や社会のための空間構成等について取り扱う。	1 前	30	2	○		
○			建築計画Ⅱ	建築計画Ⅰで学んだことをベースに、より幅広い要求を総合的に計画する方法を学び、社会的な要求を満たした建築物を合理的に設計する能力を養う。建築計画Ⅱでは、住宅建築についての理解を深める。具体的には、住宅の近代化の流れ、これからの時代の住宅建築のあり方。これまでの集合住宅と今後の集合住宅の計画の流れ等について学ぶ。	1 後	30	2	○		
○			建築計画Ⅲ	建築計画Ⅲでは、建築の歴史、寸法計画、材質、設備、造作、意匠、法律などの多域に渡る建築の各論を総合的にまとめることで、様々な方面からの建築の知識を総合して理解出来るようになることを目指す。また計画手法や建築理念を探り、高齢者等への対応を含め、実際の建築計画に活かせる計画能力を養う。	2 前	30	2	○		
○			建築計画Ⅳ	建築計画Ⅳにおいては、規模が大きく機能も複雑な公共建築の主に学ぶ。学校建築の誕生と進化、図書館の起源・種類とシステム、病院建築の概念と基本計画、事務所建築等を取り扱う。また博物館や劇場など大空間の計画を学ぶ。具体的な建築事例から、その計画手法や建築理念を探り、高齢者等への対応を含め、実際の建築計画に活かせる計画能力を養う。	2 後	30	2	○		
○			建築施工Ⅰ	建築工事の施工に関する業務に必要な知識を学ぶ。具体的には、各工事種別の材料、施工法等、また建物が出来上がっていく過程での基礎的な知識を総合的に習得し、実際の業務に活用できる能力を養う。建築施工Ⅰでは主に施工計画及び地盤調査・仮設工事までを学習する。	2 前	30	2	○		
	○		建築施工Ⅱ	建築施工Ⅰに引き続き、建築工事の施工に関する業務に必要な知識を学ぶ。各工事種別の材料、施工法等を具体的に学び、建物が出来上がっていく過程の基礎を総合的に学び、実際の業務に活用できる能力を養う。主に土工から躯体工事に至るまでの施工方法を学習する。	2 後	30	2	○		

○		建築関連法規 I	建物を設計し建設するには各種の法的規制が関わる。ここでは建築基準法を理解し、法規として遵守すべき基本的な事項および建築の計画・設計、工事に必要な基準、規定について学ぶ。建築関連法規 I では、用語の意味、建物の建設にあたり必要となる申請及び確認についての手続き、建築物の敷地面積、建築面積、及び延べ面積等の基本的知識を理解する。	2 前	30	2	○		
	○	建築関連法規 II	建築関連法規 I で学んだ建築基準法に加え、建築士法、都市計画法など、建築関連法規と社会生活との関連を理解し、法規として遵守すべき基本的な事項および建築の計画・設計、工事に必要な基準、規定について学ぶ。建築関連法規 II では、集団規定、建築士法、建設業法、消防法、都市計画法、住宅の品質確保促進法等幅広く理解する。	2 後	30	2	○		
	○	建築史 I	建築史 I では、日本の古代・中世、建築技術の発達、日本の住宅史、西洋の古代・中世、大工道具の進化と建築技術の変化等を取り扱う。また西洋建築の歴史を、各時代の様式と技術を中心に学び、建築造形の発展の過程を理解する。また、住居の発達と変遷の過程を知り、私たちの住まいの伝統とその造形の原理を学ぶ。	1 前	30	2	○		
○		環境工学 I	人間生活の器であるとされる建築物に、直接・間接に影響をおよぼす内外の環境条件について総合的に理解し、計画設計に応用する能力を養う。環境工学 I においては主に熱、空気、日照などについての理解を深める。	1 前	30	2	○		
○		建築設備 I	快適で能率的な生活環境を確保することを目的とした建築設備の計画は、建築の価値を決定する大きな要素である。ここでは給排水設備の方式や衛生・防災設備などについてその概要を学ぶ。具体的には、給水設備、給湯設備、排水設備、衛生器具設備、排水処理設備、消防設備、防災設備等を取り扱う。	2 前	30	2	○		
	○	建築設備 II	快適で能率的な生活環境を確保することを目的とした建築設備の計画は、建築の価値を決定する大きな要素である。ここでは諸設備の方式や施工方法など、建築設備の関連事項についてその概要を学ぶ。具体的には、空気調和設備、電気設備、搬送設備、設備融合等を取り扱う。	2 後	30	2	○		
○		建築材料 I	鋼材や木材、コンクリートなど、建築物を構成する各種構造材料について、その性質や使われている建築物、場所などを具体的な使用例に即して学習する。木材の物理的性質や力学的性質、鋼材の性質、鋼の種類、セメントの性質と種類、コンクリートの性質と種類についての理解を深める。	1 前	30	2	○		

	○		建築材料Ⅱ	鋼材や木材、コンクリートなど、建築物を構成する各種構造材料について、その性質や使われている建築物、場所などを具体的な使用例に即して学習する。木材の物理的性質や力学的性質、鋼材の性質、鋼の種類、セメントの性質と種類、コンクリートの性質と種類についての理解を深める。	2 前	30	2	○		
	○		インテリアデザインⅠ	室内計画の基礎を学ぶ。具体的には、人体尺度、単位空間、色彩計画などの基礎的知識を理解し、室内における平面計画を学習する。インテリアデザインⅠでは、インテリアとエクステリアの関係、インテリアのスケール、インテリア空間の構成、西洋のインテリアの家具の歴史、日本の住宅のインテリアの歴史と家具、現代社会の問題とインテリアの課題等を取り扱う。	1 前	30	2	○		
	○		インテリアデザインⅡ	インテリアデザインⅠに引き続き、室内計画の基礎を学ぶ。平面計画に加えて、ゾーニング、動線計画、家具設計などを学び、より高度な室内計画を設計する知識を身につける。インテリアの意匠、インテリアの計画、インテリアの材料、インテリアの構法等も取り扱う。	1 後	30	2	○		
	○		インテリアデザインⅢ	室内計画において重要な設備関係についての基礎的な知識を学習する。また、主に室内を構成する建築材料について、その種類や特性について理解する。室内における収納機能を持つ家具についての基礎的知識を習得する。	2 前	30	2	○		
	○		インテリアデザインⅣ	家具の構造についての理解を深めることにより、室内における安全性について学ぶ。また、カーテンやカーペットの素材や種類などを理解し、その使用方法について学ぶことにより、室内装飾についての理解を深める。室内に関する法規（内装制限など）を学び、理解する。	2 後	30	2	○		
	○		基礎造形学Ⅰ	この科目では、観察することから造形的なヒントを得、物体の真の理解を行う。基礎造形学Ⅰでは、デッサンや彫塑などの表現方法の理解を深め、創造の基礎を学習する。	1 前	30	2	○		
	○		基礎造形学Ⅱ	造形表現を理解し創造するためには、理論的にかたちを作り出す能力が必要である。基礎造形学Ⅱでは、平面と立体の両面から、色彩、形態、素材、構造などの造形原理を理解し、造形表現の力を育てていく。	1 後	30	2	○		
	○		空間デザインⅠ	自然の造形や美術作品をはじめとする過去から現在の建築や集落などの実例などをもとにして、人々の生活に関わる建築空間とデザインの基本的な成り立ちを学び、建築的な視点を養う。空間デザインⅠでは、感覚によってとらえられる空間、視知覚による空間認識、3次元としての容積の知覚、空間演出、街並みの景観等について理解を深める。	2 前	30	2	○		

	○		空間デザインⅡ	空間デザインⅠに引き続き、空間デザインに対する基本的な考え方と方法を学ぶ。人間の文化的・社会的行為から、空間の単位、寸法などの基本的な構成に関わるものまでをキーワードとして採り上げる。空間デザインⅡでは、空間の計画の必要性、寸法・形はどのように決められるのか、自然界のもの形・大きさ、建築空間のスケール、人体と空間等を取り扱う。	2 後	30	2	○		
	○		建築構造設計Ⅰ	鉄筋コンクリート構造の応力計算、断面設計、接合部の設計などの方法を学び、現在日本で行われている構造設計の概要を理解する。建築構造設計Ⅰでは、荷重の算定(固定荷重、積載荷重、積雪荷重、風圧力)、鉄筋コンクリート構造の設計(はりの断面算定、柱の断面算定、スラブの設計、基礎断面算定 等)について学習する。	2 前	30	1	○		
	○		建築構造設計Ⅱ	鉄骨構造の応力計算、断面設計、接合部の設計などの方法を学び、現在日本で行われている構造設計の概要を理解する。また大地震に対応した設計法も学ぶ。建築構造設計Ⅱでは、鉄骨構造の設計(座屈荷重の算定、高力ボルト本数、溶接部の検討)、大地震時の設計法(振動解析、剛性率・偏心率、部材の塑性解析等)について学習する。	2 後	30	1	○		
	○		構造設計演習	構造設計と連動して、鉄筋コンクリート構造部材の設計計算演習、ならびに鉄骨構造の設計計算演習を通して構造設計2単位の内容を反復し理解を深める。構造設計演習では、鉄筋コンクリート構造(はりの断面算定、柱の断面算定)、土質力学による耐力計算、基礎断面算定、引張材に生じる力の算定、高力ボルト本数・溶接部の検討等を取り扱う。	2 後	30	1	○		
	○		構造力学演習	構造力学4単位に連動して構造力学の要目別に基本的な問題についてその解法を学ぶ。演習を通じてその技術を習得する。これにより、2年次で学ぶ構造設計、構造計算を理解するための基礎を固める。構造力学演習では、力のつり合い、静定構造物の応力、静定トラスの解法、断面の性質、部材に生ずる応力度、はりの変形等について取り扱う。	1 後	30	1	○		
	○		インテリア演習	インテリア図面の制作を通して、建築設計・インテリア設計に関する技術を総合的に理解し、建築的造形力と、表現するテクニックを養う。	2 後	30	1	○		

○			建築設計製図実習Ⅰ	建築製図の基本と各種建築図面の書き方を学習する。具体的には、製図用具の使い方、線の引き方、各種図面や線の持つ意味などについて理解を深める。建築設計製図実習Ⅰでは作図力の基礎を確立することを目的に授業を行う。模写製図課題を設定し、製図の基礎の習得をはかりながら、各種図面を模写する。テキストを利用した製図課題を基本とする。木造を中心に、平面図・立面図・断面図・矩計図・構造図の模写を行う。	1 前	90	3			○
○			建築設計製図実習Ⅱ	建築設計製図実習Ⅱは、設計力の向上を目的として、建築設計(エスキス)の手法を学習する。具体的には、エスキスのまとめ方、設計手法、考え方、設計の常識等を学習する。また、自分で設計したエスキスをもとにした作品(図面・模型・スケッチ・彩色)を制作し、プレゼンテーションを行う。エスキスは3課題程度、製図も3課題程度をおこなう。	1 後	90	3			○
○			建築設計製図実習Ⅲ	エスキスを通して各種建築物の設計全般に関する基本的な知識と設計能力を養う。製図模写により二級建築士試験レベルの製図を学習する。自宅学習、授業でエスキス作成を繰り返す。授業では、個別添削指導を行う。エスキス課題数は5程度、模写製図課題数は4課題程度をおこなう。	2 前	90	3			○
○			建築設計製図実習Ⅳ	建築設計製図実習Ⅳでは、三次元の設計能力を養う。具体的には、立面・断面の理解を深める。作品を制作し、発表することは、建築設計製図実習Ⅱと同様である。自宅学習、授業でエスキス作成を繰り返す。授業では個別添削指導を行う。設計製図課題として、エスキス課題で作成したエスキスの図面化を行う。エスキスは4課題程度、製図は3課題程度をおこなう。	2 後	90	3			○
○			CAD実習Ⅰ	パソコン実務に即するCADの基本機能及び作図方法を習得する。具体的には、前半2次元作図の基本を学び、後半 SketchUp を用いてモデリングの手法を学ぶ。	1 前	60	2			○
	○		CAD実習Ⅱ	CAD実習Ⅰで学んだCAD作図の基本を元に Autocad の習得を目指す。さらにビジネス系ソフト(Excel・Word・PowerPoint)を使用し、実務に必要な書類作成能力を身につける。	1 後	60	2			○
	○		CAD実習Ⅲ	CADによる建築図面の表現技法および図面の作成技術を習得する。具体的には、JW-CAD 演習(RC造平面図・立面図、木造平面図・立面図・矩計図・伏図、測量図、敷地図等) JW-CAD の応用(その他のCADとのデータ互換)についての理解を深める。	2 前	60	2			○

	○		CAD実習 IV	3DCAD(Vectorworks)による建築図面のより高度な表現技法および図面の作成技術を習得する。具体的には、プレゼン演習の基礎(Power Point によるプレゼンテーションの基本)、プレゼン演習の実践(Power Point による自作品の制作)、作品発表を行う。	2 後	60	2			○
○			測量実習 I	基本的な測量機械についての構造、検査調整法、使用法を十分に理解し、さらに各種測量法の基礎的な知識と技術を学び、総合された応用力が発揮できるだけの能力を養う。	1 前	60	2			○
	○		材料実験	各種材料、特にセメント、コンクリート、鋼材、木材等について、その材料の持つ特性を学び、建築物に合理的に利用する能力と知識を、実験を通じて習得する。	1 後	60	2			○
	○		建築構造模型制作	模型制作を通じて、建築構造の主体構造の骨組、納まり、名称、機能を理解する。主に木造在来構法で建てられる軸組模型を制作することで、木造構造における力学的な考え方を習得する。	1 後	60	2			○
	○		建築意匠模型制作	自ら設計した建築の図面を用いて模型を制作することにより、図面から立体(空間)を把握する能力やデザイン力を身につける。	2 後	60	2			○
○			修了制作	建築科教育の集大成として、総合的な学習成果を確認する。各自の建築に対する問題意識の中から発意した自由な研究テーマに取り組み、修了制作としてまとめる。修了制作をもとに、図面作成を行う。	2 通	120	4			○
○			修了制作専攻実習	修了制作をもとに、作品の設計主旨、考え方をプレゼンテーションすることで、第三者に設計意図を伝える方法を学ぶ。	2 通	60	2			○
		○	企業実習	社会で活躍している講師の講演を聴講し、社会人となる為に必要な事柄を学び、考える。社会で活躍する人材として活躍する為に、必要な専門知識を修得する重要性を学び、在学中の勉学に活かす。	2 前	60	2			○
合計				50科目	2, 130単位時間(101単位)					